

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 **新**地歌舞担い手育成事業費補助金(国民文化祭)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部県民文化局 文化伝承課 伝統文化係

電話番号：058-272-1111 (内 3579)

E-mail：c11148@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,000 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	3,000	1,500	0	0	0	0	0	0	1,500
決定額	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

令和6年度に開催予定である「国民文化祭、障害者芸術・文化祭」に向けて、「地芝居大国ぎふ！」振興プロジェクトの一つに位置づけ、人づくりを核とする期間限定の集中的な支援を行うものであり、岐阜県地歌舞伎保存振興協議会を通して、加盟する32団体がそれぞれ実施する伝承教室を支援し、将来の地歌舞伎の担い手を育成するものである。

全国的にも地歌舞伎が盛んな本県においても、過疎化や少子・高齢化に伴う地歌舞伎の担い手不足は大きな課題となっている中、新型コロナウイルス感染症の影響によって、今年度の大会や公演会の多くは中止となった。稽古すら実施できない状況は、伝統ある地歌舞伎の衰退に繋がりがねない。1年間以上稽古ができていないため、これまで以上の稽古の回数が必要となっている状況である。この状況を打開するための支援を実施する。

- ① 地方(じかた)・子ども・立方(たちかた)伝承教室への支援
- ② 地方伝承教室で使用する消耗品費への支援

(2) 事業内容

- ・補助対象事業は岐阜県地歌舞伎保存振興協議会が行う民俗芸能の振興及び保存・伝承のための伝承事業で知事が適当と認めたもの。
- ・特に後継者不足が深刻な太夫・三味線等の裏方を育成する地方伝承教室においては、伝承教室開催に必要な三味線の撥、糸、駒等の用具・消耗品の中で知事が必要と認めたものについて補助対象とする。

(3) 県負担・補助率の考え方

各保存会の規模や事業内容によって総事業費や収入状況も異なるため、各保存会に対して一律に補助金額を決定できない。よって、公平性の観点から以下のとおり補助額を決定する。

- ・適切な伝承事業の推進に要する経費について、市町村負担金や会費などの特別な収入を差し引いた額とする。(定額補助)
- ・特定の団体に支援がかたよらないように補助額の上限を設定する。

(4) 類似事業の有無

地歌舞伎担い手育成支援事業費補助金

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	3,000	「国民文化祭」に向けた地歌舞伎伝承教室への補助
合計	3,000	

決定額の考え方

地歌舞伎勢揃い公演が終了した段階で事業評価を実施し、今後のあり方も含めて検討することとし、計上を見送ります

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

3 地域にあふれる魅力と活力づくり

(1) 地域の魅力の創造・伝承・発信

① 「清流の国ぎふ」文化・芸術の創造・伝承

(2) 次世代を見据えた産業の振興 ④ 観光産業の基幹産業化

(2) 後年度の財政負担

- ・国民文化祭が開催される令和6年度まで継続的な支援が必要である。

(3) 事業主体及びその妥当性

- ・地域に根ざした民俗芸能の保護・保存、振興のための事業を県域レベルで推進している岐阜県地歌舞伎保存振興協議会を通し、加盟する32団体に對して補助金を交付する。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

補助事業名	地歌舞伎担い手育成事業費補助金（国民文化祭）
補助事業者（団体）	岐阜県地歌舞伎保存振興協議会 （理由） 県域レベルで活動する民俗芸能の保存・振興団体であり、特に地域に根ざした民俗芸能の保護・保存のための事業であるため。
補助事業の概要	（目的） 「国民文化祭、障害者芸術・文化祭」に向けて期間限定の集中支援を実施し、各保存会の自立や伝承の確立を高めるため。 （内容） 後継者育成を推進するための伝承教室（地方・子ども・立方）への支援。
補助率・補助単価等	定額 ・定率・その他（例：人件費相当額） （内容） ・地方 1,400 子ども 800 立方 800 （理由） 適切な伝承事業に要する経費について、市町村負担金や会費等の特別な収入を差し引いた額。
補助効果	新型コロナウイルス感染症の影響によって停滞している伝承の機運を高め、地域毎の特色をもつ伝統ある地歌舞伎の継承が図られる。
終期の設定	終期令和6年度 （理由） 「国民文化財、障害者芸術・文化祭」に向けた集中的な支援を行うため。

（事業目標）

- ・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか
地域毎の特色をもつ「ぎふの宝もの：地歌舞伎」の後継者を確実に育成し、各保存会の自立と伝承体制を確立する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2年度末)	目標 (R3年度末)	目標 (終期)
① 伝承教室の開催数（延べ）	430	692	2760

	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度 (要求)
補助金交付実績	千円	千円	千円	千円 (予算額)	3,000千円 (要求額)
指標①目標				430	692
指標①実績				(推計値)	(推計値) -
指標①達成率	%	%	%	(推計値) %	(推計値) -

(前年度の成果)

--

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い	
(評価)	○ 「国民文化祭、障害者芸術・文化祭」（令和6年度）に向けて、新型コロナウイルス感染症の影響で停滞し、継承の危機に瀕している伝統芸能を活性化させる必要性は高い。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価)	
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある	
(評価)	

(事業の見直し検討)

--

(終期到来時の翌年度以降の事業方針)

継続・削減・統合・廃止 (理由)
